

にれしゅうへい
楡 周平 著「衆愚の時代」新潮新書 新潮社 2010年3月20日刊を読む

プラチナタウン構想とは

1. 真の意味で豊かな老後を過せる場、「プラチナタウン」構想が今こそ必要だし、絵空事ではなく、実現に向けて官民一体となって実現に取り組むことが必要だと考えています。同時に、プラチナタウンの設立こそが、高齢者問題を解決すると同時に、深刻化する過疎地問題、ひいては都市部の住宅問題を解消し、経済を活性化させる起爆剤になる。真面目に働けば、豊かにして楽しい暮らしができることを認知させることが、若者の労働意欲をかき立てることに繋がるのではないかと考えています。
2. 過疎に悩む地方都市には、安く、手付かなくなった土地がたくさんあります。そこに何千人も収容できる、巨大現役引退者住宅施設を建設するのです。それも、どこぞのビジネスホテルのような狭苦しいワンルーム仕様ではなく、2LDK、3LDK といった、完全定住型の施設です。
3. 同時に、完全介護が必要となった場合の、個室仕様の棟も付随して設けるのです。居住対象者は、介護など当面必要のない現役引退者から、介護必要者まで。敷地の中には、介護士の寮もあれば、家族のいる従業員向けに、住宅分譲も行う。子供を抱える従業員も少なからずいるでしょうから、施設の中には保育園も設置する。
4. 介護の手を必要とせず、普通の生活を送れる居住者は、後継者がいない、あるいは所有者が高齢化したために、放置されている田畑を使い、家庭菜園を耕作することもできれば、川や海で釣りをし、あるいは近隣のゴルフ場で存分にプレイを楽しむこともできる。陶芸、絵画、手芸教室と、老人向けではなく、一般の人間が趣味の時間を存分に楽しめるような場を随時設け、夜は、近隣の若者、従業員を交えてディスコ、あるいはコンサートを行って長い夜を過ぎて貰う。そう、私の考えるプラチナタウンとは、「動けなくなったらどうする」の老人施設ではなく、現役を退いた後の、ディズニーランドのようなアミューズメントパークであると同時に、万一のことがあっても、最後まで面倒を見てさしあげられる終^{つい}の住み処となりうるものなのです。
5. まあ、こんなことを言うと、「そんな、夢物語みたいなものが本当にできるのか」という声が即座に聞こえてくるのは分かっています。だけど、果たして本当にそうなんだろうか。現役引退者が、何の憂いも抱かずに、楽しく過せる施設なんて、できやしないものなんだろうか。

[コメント]

日本の現実を憂える楡周平氏の老人専用のテーマパーク、プラチナタウン構想。日本国内すべての市や町でそれなりに試してみる価値は十分にある考えだと私は考える。

- 2010年3月16日 林明夫記 -